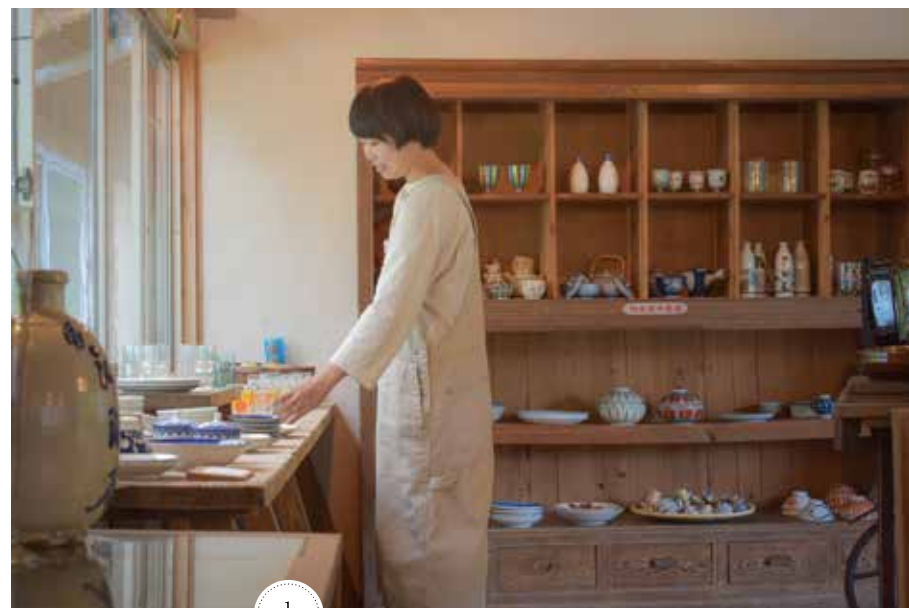




1

1 古道具の中でも田村さんが特に好きなのが、食器や棚、タンスなど日常生活でよく使うものだそうです。これまでに引き取った古いタンスや棚は、手を加えて食器棚やキャビネットにするなど、なるべく使いやすいものや使えるものになっているとのこと。何もしなければ捨てられるはずだったもう使われなくなったものが、田村さんの手によって新たな命を宿しています。

新しい使い方、
ものの命が少しでも
つながっていれば。

その家で使っていた使い方だけではなく、新しい使い方、見せ方で現代の生活に寄り添わせることで、処分されるものを少しでも救い、ものの命がつながっていればと、田村さんは話します。



2

2 タイムスリップした感覚になる掛け時計と黒電話。昔のものに囲まれたその空間は、今の時間をふと忘れてしまいそうになります。



3 ゴールデンウィークきまぐれ企画として、これまでに集めたマッチ箱を全部ならべてみたという田村さん。「箱を開けるとマッチの頭や持ち手の色が違ったり、笑ってしまうくらい荒い作りだったりするので中まで見るとさらに楽しめます!」



3



落ち着いた音楽が流れる店内

納屋をリノベーションし、素敵な雰囲気の漂うお店に。

今年4月にオープン



遠路

田村 彩花 さん

遠路遥々たくさんのものが集まり、遠路遥々多くの人が訪れてくれる場所にしたいという想いが込められている古道具屋「遠路」。四十万ビジネスプランコンテスト2020で見事大賞に輝いた田村さんの想いに迫ります。

ただ捨てられていくものを
次の担い手へ。



古

いものガもともと好きだったという田村さん。古道具屋に足を運ぶことも多かったといいます。しかし、結婚を機に3年前に四十万町へ来たとき、古道具がなかなか手に入らなかったり、身近に感じられるものがないと感じたそうです。その一方で、古くなったものはいらぬものとして捨てられていることが多いことに、もったいなさを感じていたといいます。「捨てられるもの」と、それを「欲しい人」をどうにかして結びつけることができなかつたとき、たまたま目にした「四十万ビジネスプランコンテスト」のポスターに目が留まったそうです。「四十万町に来てからまだ地域の人のこともよく知らないし、地域の人も自分のことを知らないと思うので、地域の人を知る、自分を知ってもらえる機会にもなるかなと思いました。」と話してくれました。好きな古道具を使ってそのものの新しい使い方を提案したい、そしてそれによって地域の人たちとつながるきっかけにしたい。そんな想いのもと、「四十万ビジネスプランコンテスト」に挑戦。そして見事大賞に輝き、今年の4月14日に、古道具屋「遠路」をオープンさせました。